

いわき市における課題及び文化政策ビジョン基本理念に必要な視点について

《社会情勢等を踏まえた本市の課題》

- ◆ 人口減少や高齢化社会の進行による文化芸術の担い手不足の解消や、地域コミュニティの希薄化による地域文化衰退の防止を図る必要がある
- ◆ 広域・多核分散型の都市構造である本市において、公共交通の不便性等がもたらす文化芸術活動等の地域格差の是正を図る必要がある
- ◆ ウィズコロナ・ポストコロナ時代における、ニューノーマルを見据えた文化芸術の新しい在り方等を検討する必要がある

《アンケート調査結果から見えた課題》

- ◇ 文化芸術活動者は60代以上の女性の比率が非常に高く、日常的に文化芸術に触れ、活動する機会が少ない若い世代や働く世代の男性などを取込む施策を検討する必要がある
- ◇ 人との繋がりが文化芸術活動をはじめのきっかけになるため、交流機会を創出し、文化芸術人口の増加に繋げる取組みを推進する必要がある
- ◇ 文化芸術活動の拠点は主に市街地で、中山間地での活動はほぼ皆無に等しい状態である
- ◇ 文化芸術に関する情報提供について、時代・ニーズに合った情報提供方法を検証・検討し、改善していく必要がある

**人々の心を豊かにし、将来にわたってまちの活力や魅力を生み  
続けていくうえで重要な役割を果たす文化芸術を振興し、課題  
の解決を図る。**

キーワード (ポイント)	委員意見
1. 文化芸術と市民生活 (文化芸術により、どういった市民生活の実現をめざすか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 文化芸術活動をしていない人を取り込むための取組み</li> <li>◆ 文化芸術が振興することの成果は何か＝市民の生活様式(暮らし方、余暇時間の過ごし方)＝その結果として、長期的には町並みが変わるのではないか</li> <li>◆ 市民レベルを上げる取組み⇒文化の成熟(もう一段上)</li> <li>◆ 市民の主体性を引き出す、暮らしそのもの</li> <li>◆ 市民レベルを上げるために、子ども時代の教育が大切</li> <li>◆ あたりまえのように生活の中にある(特殊なものではない)</li> </ul>
《必要だと思われる視点》	
2. 文化芸術とまち (文化芸術により、どのようなまちづくりをめざすか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ まちの再発見、まちの価値を再認識させる</li> <li>◆ 生みだすものがたくさんある。まちの価値をあげるものがたくさんある⇒掘り起こし</li> <li>◆ いわきは良いまちだという認識を与える⇒子どもたちに残ってもらう</li> <li>◆ 文化意識をあげるための取組み</li> <li>◆ 機会も施設もある、これに価値があることを市民にわかってもらう</li> <li>◆ まちのいいところの掘り起こし⇒今あるもの</li> <li>◆ 駅を降りたときに、文化が感じられるまちにする取組み</li> <li>◆ 地域にあるものを高めて文化芸術を重要視する地域という意識を根付かせる</li> <li>◆ これから残っていける地域⇒市民の質の向上(地域の文化・歴史を理解すること)⇒精神性の再発見</li> <li>◆ まちを誇りに思うこと(文化が優れていること)</li> </ul>
《必要だと思われる視点》	
3. これからの文化芸術 (時代や環境の変化への対応が必要ではないか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 過去からのものを大切にしつつ、新しいものと融合⇒コラボレーション</li> <li>◆ オンラインやデジタル技術の活用、SNSと連携したツールの開発</li> <li>◆ 伝統と革新⇒いわきは伝統的に様々な人が出入りしてきた「潮目」のまち：多様性に触れ、新たな価値観が生み出される</li> <li>◆ 市HP等に、文化活動(様々な種類のもの)を紹介する動画などのコンテンツがほしい(SNSの活用)</li> </ul>
《必要だと思われる視点》	